34. 漢方診療科

漢方診療科部長　井上博喜

2023年の漢方診療科は、COVID-19の影響による受診患者数の減少が続いていますが、初診患者数は増加してきており回復の兆しが見えてきたと思います。外来では小児の起立性調節障害の患者さんが増えてきました。漢方医学的には、水毒、気逆、血虚、冷えなどに相当し、外来での漢方治療により回復する例も多いですが、難治例では入院による加療も行っています。学生および研修医等の実習も回復してきたため、今後は実習内容の見直しを行っていく予定です。対外的に行ってきた様々な勉強会、研究会はWeb開催に切り替えて継続しているため、これまで近隣地域の先生方が対象であったものが全国から多数のアクセスをいただいております。

2023 年診療実績
入院患者疾患別内訳

病　名	総数	急患	性別		年齢（中央値）	在科日数（中央値）
			男	女		
循環器疾患	6	0	0	6	14	13
起立性調節障害	6	0	0	6	14	13
精神疾患	4	2	2	2	42.5	21
疲労症候群	4	2	2	2	42.5	21
消化器疾患	2	0	1	1	18	24
過敏性腸症候群	2	0	1	1	18	24
神経系疾患	2	1	1	1	47.5	13.5
自律神経系の多系統変性症	1	0	0	1	49	13
疲労症候群（ウイルス感染後）	1	1	1	0	46	14
内分泌・栄養・代謝疾患	1	1	1	0	32	35
副腎皮質不全	1	1	1	0	32	35
皮膚疾患	1	0	0	1	37	20
アトピー性皮膚炎，詳細不明	1	0	0	1	37	20
筋骨格・結合組織疾患	1	1	1	0	36	12
線維筋痛症（部位不明）	1	1	1	0	36	12
その他	3	0	1	2	13	19
COVID-19 後遺症	1	0	0	1	10	18
先天性非新生物性母斑	1	0	0	1	49	19
頭痛	1	0	1	0	13	31
総計	20	5	7	13	20.5	18